

教育格差を是正するのに新しい予算は要らない

—まずは自覚を持って学習しよう—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただきありがとうございます。
2. 最近話題になっていることの 1 つに、「教育格差」があります。政府は膨大な予算を組んで、教育格差をこれから是正しようとしています。そこで今回は、私の考えを述べさせていただきたいと思います。
3. 私の考えは非常に珍しい考えかもしれませんが、「教育格差を解消するのに新しい予算は一銭もいらない」というものです。民主党は教育格差解消のために新しい予算を組もうとしています、それは全くいらないのです。
4. では何が必要かという、「本人の自覚」です。学習する人が自覚をするだけで足ります。その自覚を促すのは誰かという、学校の先生と教育にかかわる仕事をしている方、そしてお父さん・お母さん・おじいさん・おばあさんをはじめとする、子どもの周りの社会の方です。
5. どのようにして「本人の自覚」を促すのかについても私の結論は明快で、「何のために生きるのか」「何のために進学するのか」「何のために学ぶのか」などを深く深く考えればよいというものです。
6. 本人が勉強しようと自覚しさえすれば、格差は一気になくなります。日本には義務教育制度があり、誰でも無償で学校に行ける機会に恵まれています。教科書も無償で提供されています。学校でコンピュータも習えます。学校に図書室もあります。そして、何よりも日本の学校には先生方もいます。ですから、学校があるのに教育格差が生まれるということは考えにくいのです。学校の先生方、保護者の皆さん、地域社会の皆さん方が一体となって「本人の自覚」を促し、学校の教科の勉強をしっかりとやるように、また、学校行事、入学式、卒業式、遠足、部活動、学級会・児童会・生徒会活動などの教科外の活動もきちんとやるようにさせればよいのです。
7. 学校の教科の勉強はもちろん、教科外の活動もすべて社会に出てから役に立ちます。自分自身が勉強しようという自覚を持って学校時代にそれらをきちんとやり続ければ、必ず学力が身に付きます。そして、教育格差の是正に繋がります。
8. 学校の先生方、保護者の方、地域社会の方々、学習塾を含む教育や学習サービスに携わる方々が、自分たちはそのような使命を帯びているのだと自覚して事に当たれば、これ以上お金、税金をかけずにいくらでも教育格差を是正できると思います。

9. さらに、お伝えしたいことが 3 つあります。学び方を学んでいる人、つまり勉強の仕方を身に付けている人は非常に学力が向上しますので、教育格差の是正になります。そこで、皆さんにぜひお願いしたいのは、どのように勉強したら一度学習したことが身に付くのか、特に定着のさせ方を身近にいる子ども達に教えていただきたいということです。
10. 例えば、ノートを取り方、メモの取り方、復習の仕方、声を出して読むときの読み方、漢字の書き取りの仕方、計算練習の仕方などです。昔はお風呂に入りながら「二二が^{に に}4」「五三^{ごさん} 15」…と九九の練習をしましたね。これも素晴らしい勉強の仕方であると思いますので、子どもたちに教えてあげてください。
11. 2 つめは、読書をたくさんする人は非常に学力が高く、あまりしない人は低いといわれていることです。ためになる本をじっくりと読んでそこに書いてある内容は何か・作者の言いたいことは何かをよく考えることは、すべて教科の基本となる読解力を育てます。自分で考える力も育てます。思慮深さを身に付けさせるのは読書です。ですから、読書に親しむことをぜひ学校で学ぶすべての人々に勧めていただきたいということです。学校で学ぶ児童・生徒・学生にクリスマスプレゼントをとお考えの方は、できればお子さんの年齢にふさわしい本を 1 冊買い求めてプレゼントしていただきたいと思います。
12. では、思慮深さを身に付けるためにはどのような本を読んだらよいか。あまり軽い本はいくら読んでも思慮深さが身に付かないと思います。大人の皆さんがお読みになって著者(本を書いた方)の思想・考え方が伝わってくるような本がよいと思います。
13. 一番よいのは、学校の図書室や公立図書館、近くの大学の図書館にある本です。図書室や図書館には司書の方がいらして、自分の仕事を賭けて子どもたちが読むべき良書を並べてくださっているからです。本を購入するのが困難なときは、お子さんに「図書室や図書館にある本を読もうね」と言っていただければ格差解消です。ですから、図書館にかかる税金からの費用は削られないほうがよいと思います。私は、1 年 365 日、1 日も休館することなく、朝 6 時頃から夜 12 時頃まで開けていただき、勉強するチャンスを子どもたちにも社会人にも与えてくださるのが、行政の役割であると思います。図書館に休館日をつくることは教育格差の是正につながりません。学校の図書室担当には教科の授業をもたせない、学級の担任や副担任に任じないこと。その学校の児童・生徒・学生全員が各自にふさわしい読書や学習ができることのみを考え、仕事をさせることが大事です。
14. 3 つめは、新聞を読むことを子どもたちに勧めていただきたいということです。この CRT 栃木放送を含めたマスコミの社会的使命とは何か。新聞は「社会の Watch dog(番犬)」といわれます。社会の問題点、克服すべき課題を鋭くえぐり出して、このようにすればもっとよい世の中になるということを示す。これが新聞の役割です。
15. 特に新聞は文字で書かれていますので、ゆっくりと読み返すことができます。これをする、自分の力で考える力、つまり批判的思考能力が身に付きます。批判的思考能力とは、今の世の中はこれでよいのか、もっと違う世の中があるのではないかというように、ものごとを批判的に見たり考えたりする力のことです。大量の文章を毎日読みますから読解力も身に付きます。新聞を読んで考えることも教育格差の是正に繋がります。

16. これまで述べてきたように学び方を学ぶこと、読書による思慮深さを身に付けること、新聞を読んで考えることをしっかりとやり、自分自身は何のために生きるのかという志を立て、しっかりと自分の力で自分の未来を切り開く。今学べることは学び、「本人の自覚」を深めていただくと、教育格差は是正できます。
17. また、学校で学ぶチャンスに恵まれているのですから、学校で学習する教科や学校で行うさまざまな課外活動に真剣に取り組んでいただくと、さらに実力がつき、格差の是正になります。
18. お金が足りないときは、奨学金をお借りして学校教育を続けることを考えるとよいと思います。日本には、かなりよい奨学金制度があります。
19. 日本は、世界でも珍しいほど教育格差の少ない国です。これからもっともっと少なくして、一人ひとりが人生において成功したり、正常に機能する社会の形成に貢献したりできることが大切ですので、新しい予算は一銭も組まずに今の予算の範囲内で私たち一人ひとりの手で教育格差を是正していくとよいと思います。
20. 皆さんはどのようにお考えでしょうか。

— 2013 年 4 月 9 日 加筆訂正 林 明夫 —